

●演習ワークシート

事例 1

症例：60 歳代，男性

主訴：発熱，呼吸困難

3 日ほど前から発熱，咳嗽があった。市販薬で経過を見ていたが，症状の改善なく，呼吸困難も出現したため救急要請となった。

既往歴：高血圧

内服歴：降圧薬

【来院時現症】

血圧	脈拍数	呼吸数	体温	SpO ₂	意識
172/101mmHg	127 回/分（不整）	40 回/分	38.9℃	測定不可	GCS4-5-6

口唇・末梢のチアノーゼあり，両側で著しい Rattle を聴取，鎖骨・胸骨上窩の陥没呼吸あり，全身著しい発汗あり

OSCE 使命 1

この事例について，手順書に沿ったうえで動脈穿刺についてのプランを立ててください。なお，以下の項目について具体的に検討し実施してください。

- ・ 特定行為対象となる根拠について
- ・ 診療補助を行わせる病状の範囲について

●演習ワークシート

事例 2

症例：80 歳代，女性

ADL の自立した高齢女性。認知症なし。慢性閉塞性肺疾患および肺炎で 1 週間前から入院中の患者。抗生剤治療を続けているが、間欠的な発熱が続いており、咳嗽や喀痰などの症状も改善なく経過している。

既往歴：慢性閉塞性肺疾患（在宅酸素導入中，2L/分）

夜間に呼吸困難のナースコールがあり訪室した。

【訪室時現症】

血圧	脈拍数	呼吸数	体温	SpO ₂	意識
119/67mmHg	101 回/分（整）	50 回/分	37.9℃	99%（10L/分）	GCS3-4-6

両側で笛声音（wheeze）及び水泡音（crackle）を聴取。鎖骨・胸骨上窩および肋間の陥没呼吸あり。呼吸は非常に浅い。

OSCE 使命 2

この事例について、手順書に沿ったうえで動脈穿刺についてのプランを立ててください。なお、以下の項目について具体的に検討し実施してください。

- ・ 特定行為対象となる根拠について
- ・ 診療補助を行わせる病状の範囲について

● 演習ワークシート

事例 1

症例：70 代，男性

右大腿骨頸部骨折で入院中。数日前から食事の際にむせ込みを認めていた。午後から悪寒を伴う 38℃の発熱と酸素化低下を認めた。

精査で誤嚥性肺炎による敗血症の診断となり，ICU に入室した。

【ICU 入室時バイタルサイン】

血圧	脈拍数	呼吸数	SpO ₂	意識	体温
100/60mmHg	90/分，整	20 回/分 やや努力様	90% (経鼻カヌー 3L/分)	清明 (GCS E4V5M6)	38.5℃

OSCE 使命 1

下記を評価し，橈骨動脈ラインの確保をシミュレータにて実施してください。

- ・呼吸不全はありますか？
- ・循環動態や意識状態は安定しているか？
- ・動脈ライン確保の適応があるか？